J-SIP-B150

M15-17

異種異質連携融合の基盤を構成する我が国地勢の固有性と多様性考察　その４
ー日本列島の独自性・固有性と内的多様性を整理考察する

〇湯本長伯（社会構造設計研究所）／村上晶子（明星大学建築学部長・教授）

★概要：数年前の中部北陸支部設立に際して、本学会が研究基盤に置く『異種異質の連携融合(Collaboration of heterogeneous)』の更なる下層基盤として、『独自性や多様性の存在形態』に再着目し、世界的にも独自性や内的多様性で知られる日本各地の文化文物研究を始めた。『異種異質の連携融合』を基盤に研究を続ける中で、真の『異種異質』が容易には得られないことも理解しており、その基盤としての『独自性や多様性の存在とその形態』が、注目される訳である。社会全体の『同質性 Homogeneous』が高まると、一定条件下で効率的な社会も変化には弱い生き残り難い社会になってしまう。地球の生物史が教えている通りで、新しい価値創造のために重要な研究分野と思う。本研究は 2021 年秋季に此の関西・中四国支部研究発表会で発表したのが初出であるので、此れまで積み重ねて来た『固有性・独自性と多様性考察』研究を整理し、次の段階に繋げる考察をしてみたい。

１．日本列島の多様性基盤としての地勢

先ずその第１段階の整理として『日本列島の東西南北に長く伸びる地勢』に着目、例えば全国で同じように愛でられる『桜の開花』さえも、日本列島を数か月掛けて移動して行き同じように愛でられながらも、その背景・気候等々は少しずつ異なっている。暑さの中で咲く桜もあれば、未だ雪の舞う中で咲く桜もあって多様である。同じ風物や文物であっても必ずしも全く同じではなく、多様性に繋がる糸口が準備されているとも言える。多様性や創造性に向けては、極めて巧妙な構造になっているように思われる。

２．地域背景としての日本海と太平洋

列島のほとんどに日本海側と太平洋側の２つの背景があって、気候も異なり産物も異なり人々の気質も異なる極として影響を与えていることが解る。同じ海でも地域に齎すものが大きく異なり、また地形の影響もあって日本海は我が国物流の主要幹線として中世から近世まで大きな機能を発揮した。

３．大きな湖沼或いは内海の存在

もう一つ地域に特徴的なことは、大きな湖沼或いは内海の存在である。日本列島内でも有名な湖沼は、近江と遠江である。近江は都に近い江ウミで、琵琶湖のことである。遠江とは都より遠い江ウミであり、浜名湖のことである。

いずれも地域に水運（日本では陸上交通の前に小河川ネットワークでの重量物物流が発達した。背景には多くの河川の存在があり、背景として日本海＋太平洋が在った）という大きな利を与えた。物流手段があれば、物資も集まる。利は大きい。

また漁業の利（稲作と畑作を中心の農業生産中心の経済構造では、蛋白源が構造的に不足する。信濃等多くの山岳地域では、昆虫食が見られる。此の産物は地域に直接的恩恵があるだけでなく、経済的な恩恵もある）を齎す。水は他に無い大きな恩恵と経済的価値を与えてくれるのである。

４．考察対象とした地域ー１

事例としたのは第１に中部北陸地域で、地質的にはフォッサマグナ（大地溝帯）と呼ばれる地域である。日本列島がプレート活動による力でユーラシア大陸から引き剥がされ、２つの棒状の陸地になり、それらが中部北陸地域で緩く接合した後の時間経過のうちに、河川による土砂運搬その他の地質活動により、陸地化した地域である。

図-1　a 中部に位置する各県　b 同地形図

この地域はフィリピンプレートが列島の下に潜り込んでいる地域で、造山活動も盛んで台地にはシワが生じており、高い山・富士山があるだけでなく、地域間にも山地があって分離され、独自性を生み易い特性がある。

５．考察対象とした地域ー２

単独では未発表であるが、島根・鳥取地域も大きな湖沼を持つ地域として考察した。島根地方は宍道湖と中海という比較的大きな湖沼が存在し、先に述べた様々な恩恵を地域にもたらし、経済的にも豊かさを与えている。大きな湖沼の存在が特性を決定づける地域である。

図-2　島根県松江地域の宍道湖と中海

６．考察対象とした地域ー３

常陸地域、現在の茨城県を中心とした地域である。此の地域は『常陸（日立）』と呼ばれたが、時代を遡ると陸地どころか『香取海』と呼ばれる中海・内海が大部分の地域で、古社『香取神宮』は古くから一帯に力を持ち、水運の要所要所（水面は分散していた）で通行を管理する地域の支配者でもあったと言われる。

一方では政権としてのヤマトの先鋒として、蝦夷エミシ征服の先端基地的な役割も負っていた。

７．まとめ

先行するフィールドワークに拠る知見から、①列島の東西南北に細く延びる形状による差異、②日本海側と太平洋側を結ぶ街道の存在と地域への大きな貢献、③列島内には少ない事例だが大きな湖沼の大きな影響、等が見られた。また列島内の地形も変遷して来ており、その変遷の中での考察も意義深い。今後更に続けたい。

８．産学連携学会・中部北陸支部の設立

ａ中部北陸支部は、静岡県を事務局とし、以下の地域幹事を代表構成員としている。矢野卓真（名古屋工大）、上原雅行（岐阜大）、狩野幹人（三重大）、林 靖人（信州大）、中田泰子（北陸先端科学技術大）、江田英雄（光産業創成大、支部長）、木村雅和（静岡大）、湯本長伯（社会構造設計研究所・熱海支所）、

ｂ構成（愛知、岐阜、三重、長野、石川、富 山、福井、静岡）

註

1 ※【参考文献】 ｼﾞｬﾊﾟﾝｺﾘﾄﾞｰﾙﾌﾟﾗﾝ、ＰＨＰ研究所、1987、石井威望、天野光三、伊藤滋、佐貫利雄、月尾嘉男、湯本長伯ほか（列島を貫く高い山地を障壁に表裏が分断されていたが、太平洋側と日本海側の接続は、日本の大きな可能性を創り出せる。）

【関連発表】

註１　産学連携学会中部北陸支部設立に係る『異種異質連携基盤』の考察　湯本他（関西中四国支部研 2021）

註２　産学連携学会中部北陸支部設立に係る『異種異質連携基盤』の考察 その２　湯本他　産学連携学会大会熊本 2022

註３　支部設立を契機に地域特性･多様性から異種異質連携を考察その３常陸の考察　湯本他　産学連携学会大会高知 2023

2※異種異質の連携融合が歴史的に高い頻度で起きた場の考察＝「都ﾐﾔｺ」や「街道ｶｲﾄﾞｳ」を参照し、連携融合の材料となる異種異質の存在は、多様性のある背景・基盤に支えられる。多様性に富む社会背景をイノベーションは求め、四季に富む我が国の地勢的背景は恵まれている。更に太平洋と日本海というかなり異なる環境条件を持つ２つの海の存在は、 我が国各地の多様性に強い影響を与えていると考えられる。

3※『創造と連携の経済学』シュムペーターの経済学では、経済発展を駆動する５つのイノベーション・革新（商品･･･）を挙げている。創造が生産を推すことは想像され、且つ創造を生む仕組みは『異種異質なものの連携融合』が基軸となる。

４※太平洋側日本と日本海側日本の接続

各地に必ずあるのが列島の表と裏を繋ぐ 『山越え街道』と『岡場所』の存在である。『山越え街道』はその前後に、『岡場所』『盛り場』商業地を形成していたと言える。

５※【大きな湖沼を持つ地域は多くはない。地域によっては、湾に近い内海も含まれる】 青森（十和田湖）、秋田（八郎潟）、福島（猪苗代 湖）、茨城（霞ヶ浦・北浦）、長野（諏訪湖）、島根（宍道湖・中海）、瀬戸内海・八代海・錦江湾

６※各地図は、インターネット上に公開地図を使用した